



報告

東村山市のぐちちょう子育てひろば ぷくぷく

ぷくぷくDIY企画

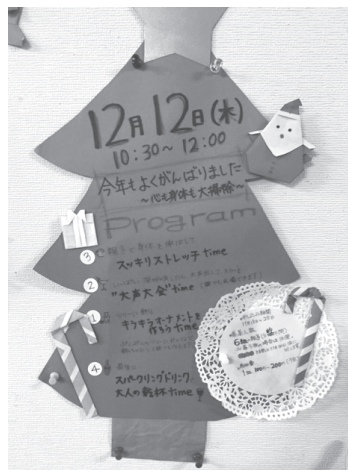
「今年もよくがんばりました ～心も身体も大掃除～」

DIYといっても、モノを作るわけではありません。ママ達为中心になって、楽しいことを考えてやってみよう！という企画です。

あらかじめ決まっているのは、日にちだけ。企画メンバーを募ったところ、4人のママが手をあげてくれました。6月から半年の間、月に1回集まって、まずはそれぞれやってみたいことを出し合うことから始まりましたが、スタッフには考えつかないような素敵なアイデアがたくさん出ました。

ぷくぷくはワンフロアのスペースのみ。イベントに参加しない利用者さんが居合わせることもあるので、申し込みをしていない人も楽しめるようにするには？などと話し合ううちに候補が絞られていき、《日頃がんばっているママ達をねぎらう会》を開催することになりました。

ひとつの目標に向かって、メンバー同士がより親しくなって、直前になると「(親も子も)風邪ひかないようにしなくちゃ」「準備でやり残したことはないかな」と、ひろばに立ち寄ってくれたり、責任感の強さも感じられました。



当日の様子は次のページで!

楽しかったね!



会の進行も説明も企画メンバーのママたちで

報告

てまひま 親子ラボ

～「いい親」「いい子」を手放しませんか?～

「子どもオトナもどちらも主役!」
それぞれの家族らしさを見つけよう!



「親子ラボ」は、子どもの発達を学ぶ機会と、安心して子育ての悩みや考えを話し合える場づくりのために企画した講座です。2019年10～11月、全4回の連続講座に7組の親子が集まりました。

初回は緊張の表情だったみなさんも、2、3回と会が進むうちに、笑顔になっていき、集まると「こんなことがあったの。聞いて～」と会がはじまり、あっという間に1日が過ぎます。4日目の最終日には「これで終わり?」「さびしい」「もっとこのメンバーで話したかった」という声に変わりました。2ヵ月間の子ども達の成長を、ママと一緒にスタッフ、サポーター(前回受講した先輩ママ)、みんなで喜べるのも、もうひとつの良さです。子育て、家事、仕事…と日々忙しいママたちが、この講座を通して子どもと過ごす生活をより楽しいと思えるきっかけとなれば嬉しいです。

1日の流れ

- 午前 子どもが主役の時間
五感を使った探求遊びやお散歩など。親は子どもの発達について学びながら見守ります。
- 昼食 持参のお弁当を一緒に食べます。
- 午後 大人が主役の時間
ノーバーディス・パーフェクトの要素を取り入れた語り合い。子どもは引き続き探求遊び。

※「てまひま基地」
青葉町の花さき保育園旧園舎で、HUGが地域の居場所作りを行っています。「てまひま基地」の運営は、社会福祉法人土の根会 花さき保育園の「こじか村事業」の一環です。

こどもじんけん かんきょう



Twitter



Instagram

アンケートより



新たに知り合った人の考えを聞き、客観的に自分のことを考えることができた。

「子ども観察」で、ふだん見過ごしている成長をじっくり見られた。

子どもの気持ちをわかってあげようとじっくり考えられるようになった。

毎回同じメンバーで集まるということが初めて楽しかった。

ここでしかできない体験がたくさんありました。参加型でとても楽しく、役立つことも多かったです。

雑記報 ■青葉町の花さき保育園旧園舎で始まった「てまひま基地」。毎月いろいろな企画があります。月1回主に土曜日に開催している「ブックトークカフェ」は、HUG会員Mさんの紹介してくれる本がとってもおもしろいです。昆虫本からかわいい絵本、社会派の本まで多種多様。きつとあなたの世界を広げてくれますよ。ぜひ足を運んでみてください。■「てまひま基地」の毎月の企画内容はカレンダーにまとめ、紙媒体だけでなく、ツイッターやインスタグラムでタイムリーに発信するという、私達にとっては初の試みに挑戦中。2月23日(日)は「てまひまバザール」。フリマと手作り雑貨のイベントです。人気の「おもちゃ交換屋さん」も。いらなくなったおもちゃを持ってきて、欲しいおもちゃと交換しよう! ■12月8日(日)、自由の森学園の菅間先生による「もし、あなたのバイト先がブラックバイトだったら」労働権という知的護身術を学ぶという授業スタイルの講座を開催しました。中学生から大人まで生徒になって、共に「自分ならどうする?」と無賃のバイトの例について考え、他の人の意見との違いもまた興味深いものでした。「おかしい」と思った時、実際に声をあげて団体交渉した高校生の活動の話聞き、気付きや問題解決の仕方考えさせられる貴重な時間でした。■世界中で心配される気候危機。最近では台風や水害など日本でも各地で被害が出て、本当に他人事ではなくなりました。人間が自然の摂理に従わずに発展してきたことに地球が怒っているようにも見えてなりません。今の私達ができることは何なのか。近くの人と話題にしていきたいなと思っています。

ルネコラム
東村山の
子育て
いまむかし

人との出会いに支えられた 私の子育て

K.Aさん (青葉町)
長女 26歳 長男 23歳

茨城の実家近くの障害児統合教育を実践していた幼稚園で働いていた私は、結婚して新座に住むことになりました。友達も知り合いもいない土地での新生活、田舎を出たことで嬉しかったはずなのに、2ヵ月後には強烈なホームシックに。帰宅した夫にしゃべりまくるなどちょっと危なかった(笑)。市役所に相談に行くと、前職の経験を買われ、たまたま募集のあった障害児施設の産休代替として働くことに。その後は家庭児童相談室の非常勤になり、仲間にも恵まれやがいを感じていました。

翌年、長女を出産。1ヵ月ほど里帰りして実家を出るとき、不安で苦しくて涙が出たことを覚えてます。帰宅と同時に子どもの昼夜逆転が始まりました。夫の帰りは毎晩10時過ぎたし、実家は遠い…肉体的、精神的に苦しかったけれど、夫に理解してもらおうと助けを求めることもできなかった。幼稚園の教員としてのプレッシャーもあって「できるはず」「やらなきゃ」と自分を追い詰めていましたね。でも、教員としての子育てと、わが子の子育てでは全然違う!!

1歳3ヵ月での職場復帰を機に、朝、保育園への送りは夫がすることになりましたが、それ以外は、残業になっても健診も通院も一人で行なうしかありませんでした。

東久留米に越し、転園した保育園は小規模の公立保育園。3歳違いで出産した長男をおんがしてお迎えに行ったとき、クラスのママが「大丈夫? 疲れてない?」と声をかけてくれました。彼女も2人子どもがいるのにいつも笑顔。周りを巻き込む力のある人で、自宅に誘ってくれました。そのうち「ご飯も食べていけば」「お

風呂も入れちゃおう」とすっかり仲良くなり、今でも大切な友人です。一緒に園の役員もやり、そのときの他のメンバーとも飲みに行ったり旅行に行ったりするようになりました。

みんなでのお好み焼きを作って食べた、買ってきた総菜を並べることも。友人たちが家事や育児の上手な手の抜き方を見せてくれて、「それでいいんだ」「楽しんでいいんだ」と思えるようになりました。実家の母と同じように全部手作りでもなくていい、完璧を目指さなくていい、助けてもらっても弱音を吐いてもいいんだって。ワンオペ状態はその後変わらなかつたけれど、この気持ちの転換は大きかったです。長女は人見知りで神経質。寝ない子で夜泣きも激しく寝不足がきつかったですね。朝、別れるときはいつも号泣。3歳になってようやく「バイバイ」ができるようになりました。そんな娘をしっかりと受け止めてくれた保育園の先生方には本当に助けられました。

長男はごきげんでよく寝る子。半年の無認可保育園通いを経て、長女と同じ園に移ることができました。行事のたびに父親たちを上手にまとめてくれたのがこの園の男性保育士さんで、夫も飲み会で多様な職業の人と話す機会は楽しかったようです。園のホールでイベントをしたり、資金集めで地域のお祭りに出店したり、父母会活動も活発でした。なにより夫がすごく変わりました。その後の地域との関わり方もここでの経験あってのことかと思えます。

長女の小学校入学を機に東村山に転居。春休みから学童保育所に通っていたおかげで友達ができ学校生活をスムーズにスタートできました。親達にもキャンプ・餅つきなどみんなで盛

り上げようという雰囲気があり、学童で親子ともに地域のつながりができました。なんと、夫も父母会長を引き受けました。

緊張しやすくまじめな長女、頑張りすぎることも担任がよく理解してくれてありがたかったです。小学2年生からミニバスケットにのめりこみ全国に行くまでに。名門といわれる中学に入り、毎日始発で出る娘に弁当を持たせるのは親の体力も大変でした。高校は地方で寮生活。そこでも親のつながりに助けられました。バスケのライバルであり仲間である学友たちとの生活は濃厚だったと思います。辛いこともあったと思いますが、今でも苦しかった話はしませんね。この間、私も市内の職場に移りました。

娘は現在、特別支援の教員になりたいという夢を叶え盲学校に勤めています。その根底には多摩全生園での学びがあります。先日結婚しましたが、そのきまじめな性格が、子育てのときちょっと心配…。

息子は引込み思案で甘ったれ、すぐ泣く子でしたが、中学の先生に勧められて合唱コンクールの指揮者を経験してから少し積極的になりました。小さい頃から続けてきたサッカーでも、指導者や先生方に恵まれてきたせいですが、次は自分が人の面倒をみたいと思うようになったようです。今年度から、地方で中学校の教員となり、とても楽しそう!

子ども達が巣立ち、子育て一段落。嬉しいけれど、寂しい気持ちも。あらためて振り返ってみると、子育てを通して出会った人達に助けられ支えられてきたなあと思います。でも、もったいなくおおらかに子育てしたかったな(笑)

1ページより
続き

12月12日(木) いよいよ当日!

企画メンバー4組に加えて、参加申込みをした6組の親子が集まりました。司会進行や受付、キラキラオーナメントの作り方の説明等、役割分担もそれぞれの得意なことを。スタッフは黒子です。本物の測定器を使っての大声大会では、おとなは思い思いを叫び、みんなの笑顔に見守られながら泣き声で参加した赤ちゃんも。サンタさんが登場するサプライズもありました。盛りだくさんの内容で、終了後のアンケートからも皆さん楽しめたことがよくわかりました。



スッキリストレッチ time



大声大会 time

小さい子どものお世話やおうちのことをしながら、話し合いの時間に合わせて集まったりするだけでも大変だったのではないのでしょうか。企画メンバーへの参加はハードルが高くても、準備を手伝ったり、参加することも応援の一つのかたち。「仲間と一緒になら、私にもできることがあるかも!」と感じたら、ぜひ挑戦してみてくださいね。

ぷくぷくDIY企画
今年もよくがんばりました
~心も身体也大掃除~
キラキラオーナメントを
作ろうtime
大声大会time
スッキリストレッチtime
などなど!



キラキラオーナメント作り



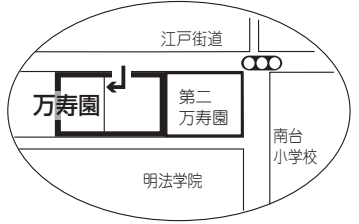
子育てひろば 万寿園

2019年10月、「子育てひろば万寿園」がスタートしました。
マンションがたくさん建って赤ちゃん達が増えている富士見町。ぜひ遊びに来てください。



《会場》老人ホーム万寿園 5階ホール
《日時》月2回金曜日 10:00~12:00
《問い合わせ》050-3510-4587 (HUG)

※「子育てひろば」は、出入り自由の親子の居場所です(無料)。
※開催日は、「トコトコ通信」等でご確認ください。



東京蒼生会養護老人ホーム万寿園
(東村山市富士見町2-1-3)
※駐車場はありません